



目次

◆支部の動き.....1	■連携団体（支部等）代表者・事務局変更のお知らせ.....9
■支部報 保護・調査記事関連トピックス.....1	
◆ブロックからのお知らせ.....7	■会員数.....10
■第41回日本野鳥の会東北ブロック協議会総会報告.....7	
◆事務局からのお知らせなど.....9	

◆支部の動き

■支部報 保護・調査記事関連トピックス

本記事は日本野鳥の会へ送付されてきている各地の支部報/会報から抽出して作成し、調査・保護に関心がある野鳥の会の会員へ配信しております。本記事の一部又は全部を不特定多数が見る可能性があるところへ公開される場合は、各支部/各会の了承を事前に得てください。記事は筆者の意向に反しないように、取り扱いをお願いします。

NO. 930

- 2019/3 埼玉
 - ・亜種リュウキュウサンショウクイ（野鳥記録委員会）
 - 2019/3 奥多摩
 - ・仏法僧の声を聞く会記録
 - ・ヤマシギ
 - 2019/2 軽井沢
 - ・鳥の眠り（鳥追人）
 - 2019/3 軽井沢
 - ・跗蹠（ふしよ）（鳥追人）
 - 2019/3 富山
 - ・野鳥記録委員会報告
 - 2019/3 滋賀
 - ・ケリ
 - ・通勤鳥見の薦め
 - 2016/3 大阪
 - ・鳥たちの気になる行動
 - ・セキレイ類の尾振り行動
 - ・シラガホオジロ越冬大阪府初記録
 - ・オジロワシ
 - ・キマユホオジロ
-
- 2019/3 埼玉
 - ・亜種リュウキュウサンショウクイ（野鳥記録委員会）
 - 12/8、さいたま市の見沼自然公園で亜種リュウキュウサンショウクイが撮影された。12/16にも、滑川町の

武蔵丘陵公園での探鳥会でも観察された。以前から分布の北上、拡大が知られている。埼玉県では2016/11のさいたま市での記録に次ぐ2例目である。
（埼玉「しらこぼと」NO. 420, P4）

●2019/3 奥多摩

・仏法僧の声を聞く会記録

初代奥多摩支部長故萩原平八氏の武州御嶽山、仏法僧の声を聞く会（1966年）以前の19回の探鳥会記録の草案が出てきた。青梅市の御岳山では戦後すぐ、中西先生及び支部会員、東京都、青梅市、同観光協会等で探鳥会が行われていた。昭和20年12月29日、中西悟堂先生が疎開先の山形から引き上げ、現秋多町に仮寓していた。地元との交流で日本野鳥の会秋川支部（後の奥多摩支部）が結成された。

（奥多摩「多摩の鳥」NO. 247, P22～25）

・ヤマシギ

ヤマシギは夜行性で昼間は枯葉が堆積した湿地や、丘陵の斜面にじっと潜んで、至近距離から不意に飛び立ち、記録が少ない。飛び立ってもさほど遠くまで飛び去らないので、その着地点を見極めることが大事である。繁殖地の北海道では春先にディスプレイフライトや夕方に「キチッ、キチッ・・・」と鳴きながら低空を飛ぶ。

（奥多摩「多摩の鳥」NO. 247, P27）

●2019/2 軽井沢

・鳥の眠り（鳥追人）

グンカンドリやアマツバメは飛行しながら眠る。カツオドリの頭につけた脳波のセンサーで分かった。マガモの群れでは外側の目は開き、見張りをし、内側は閉じて脳が半分寝ている。ツバメは集団塒を作ることでも有名であるが、営巣中は、♀は巣で寝るが、♂は巣の近くで寝る。ツバメの集団塒は越冬地の方が大きい傾向にある。ヨーロッパで営巣したツバメは越冬地のアフリカでは数十万羽の集団塒が記録されている。西日本では電線、街路樹での塒が知られる。

（軽井沢「野鳥軽井沢」NO. 430, P6～7）

●2019/3 軽井沢

・跗蹠(ふしよ)(鳥追人)

鳥の跗蹠は人の趾(足指)の付け根までを示す。①可変対趾足:4本の指の内、第四趾が前方、後方にも移動する。②変対趾足:指が前2本、後2本。③外対趾足:第四趾が体方向に向く。④三趾外対趾足:外対趾足の1本が無く、全体で3本。アマツバメは4本の趾が全て前向き(皆前趾足)。

(軽井沢「野鳥軽井沢」NO.431, P6~7)

●2019/3 富山

・野鳥記録委員会報告

下記の種が支部の富山県の鳥類リストに追加された。2017/9、富山市の白石川河口でアオツラカツオドリ。2017/12、富山市の水田でナベツル。2018/2、富山市の田園地帯でシジュウカラガン。2018/2、富山市の常願寺川周辺でハイイロガン。1995年に記録があるが、当時はヨーロッパに分布する個体とされていたが、今回、富山県の認定例とする。

(富山「愛鳥」NO.75, P8~10)

●2019/3 滋賀

・ケリ

ケリには目の前に丸い黄色の皮膚の露出部がある。♂の方が大きく、繁殖期に特に目立つ。ニワトリやクイナ同様飾り(とさか?)の意味か?翼には爪状の突起があり、人の親指に当たる部分。ケリ、ガンに見られ、縄張り争いや外敵への威嚇に使う?ケリやシギ、チドリの間は地上を速く移動するため、後肢は短く地上に着かない。足裏は柔らかく、凹凸が殆ど無い。

(滋賀「におのうみ」NO.56, P21)

・通勤鳥見の薦め

ヒヨドリは常にいる鳥のイメージであるが、6~10月は少なく、8月には最少になる。8月は繁殖期終盤で近隣の山に行き、街中にはいない?

(滋賀「におのうみ」NO.56, P25)

●2016/3 大阪

・鳥たちの気になる行動

2012/6/1、21時、堺市の立体駐車場の自販機の前でイソヒヨドリ♀が虫を採った。大阪城公園内に設置された大型スピーカーに2羽のカラスがガー、ガーと怒り?それに折った小枝をぶっつけていた。騒音にカラスも苛ついた?

(大阪「むくどり通信」NO.257, P4~11)

・セキレイ類の尾振り行動

セキレイが尾を振るのは捕食者に対するシグナルではないかの仮説がある(Randler 2016)。藤田(2015)は、セグロセキレイは捕食者を警戒している時に、頻りに尾を振る(データは公開無し)としている。気付いているので、捕食者が襲っても無駄を伝える?もっと詳しく調べる必要がある。

(大阪「むくどり通信」NO.257, P12)

・シラガホオジロ越冬大阪府初記録

2007/12~2008/1、堺市で越冬中のシラガホオジロの写真が見つかった。♂♀合わせて数羽で、大阪府初記録

となる。

(大阪「むくどり通信」NO.257, P18)

・オジロワシ

1/29、堺市でカラスに追われるオジロワシ幼1が撮影された。大阪では2017/1/31の高槻市での成鳥通過以来の記録である。

(大阪「むくどり通信」NO.257, P20)

・キマユホオジロ

1/26、堺市でアオジに混じってキマユホオジロ♂1が撮影された。本種は旅鳥として主に春に日本海側の離島で比較的多く記録されるが、冬鳥は少ない。大阪では越冬は初記録で、2012/4以来の2例目となる。

(大阪「むくどり通信」NO.257, P20)

NO. 931

●2019/3-4 宮城県

・エナガ

●2019/3 千葉県

・東電100万KW洋上風力発電を計画(1/1読売新聞)

・猛禽類の減少深刻(1/23日本経済新聞)

●2019/4 軽井沢

・種分類

●2019/4 三重

・オオジュリンの渡り

・ツンドラハヤブサ

・メガソーラー事業問題

●2019/3 筑豊

・ライファー

・ツル性植物の蔓の巻き方(植物部)

●2019/4 長崎県

・鳥の名がつく名字

・ナベツル北へ(3/9長崎新聞)

・西海市に風力発電施設計画(3/5読売新聞、長崎新聞)

・佐世保市の風力発電計画に要望書

●2019/3-4 宮城県

・エナガ

エナガは17亜種に分類され、その内、日本には4亜種が見られる。エナガ:本州に分布。稀に北海道南部でも見られる。コウライシマエナガ:欧州北部からシベリア、韓国、北海道に分布。稀に本州北部で見られる。幼鳥には薄い過眼線がある。北海道、サハリンに分布するものは亜種シマエナガという。キュウシュウエナガ:四国、九州に分布。亜種エナガと形態の相違殆ど無い。チョウセンエナガ:韓国中部、南部、対馬、吉岐、佐渡島に分布。

(宮城県「雁」NO.294, P23~24)

●2019/3 千葉県

・東電100万KW洋上風力発電を計画(1/1読売新聞)

東京電力は1兆円規模の5000KW×200基の洋上風力発電(土台を海底に設置)を銚子沖で計画している。国の固定価格買取制度を活用する。国は全国で5箇所程の促進区域を設け、東電は先行している。東電は近々、銚子沖で、国内初の着床式の2400KW洋上風力発電の

商用運転を予定している。

(千葉県「ほおじろ」NO. 455, P12)

●猛禽類の減少深刻(1/23 日本経済新聞)

世界約 550 種の猛禽類の 52%で個体数が減り、18%が絶滅の危機にあるとの調査結果をバードライフ・インターナショナル(本部英国)がまとめた。日本では 34 種中 14 種で数が減っている。この内、シマフクロウ、カタシロワシ、オオワシ等は絶滅危惧種とされる。

(千葉県「ほおじろ」NO. 455, P13)

●2019/4 軽井沢

●種分類

最近の種分類の傾向はDNAの違いを使い、日本鳥類目録第 7 版(2012/9)では第 6 版で「ウグイス科」がひとまとめであったものが、ウグイス科、キウイタダキ科、ズグロムシクイ科、セッカ科、センニュウ科、ムシクイ科、ヨシキリ科の 7 科に分かれている。フィールドガイド日本の野鳥(増補改訂新版 2015/6)にはダルマエナガはズグロムシクイ科となっている。国際鳥類学会委員会(IOC)のリストに沿うとある。鳥類目録第 7 版では検討種になっている。

(軽井沢「野鳥軽井沢」NO. 432, P8~9)

●2019/4 三重

●オオジュリンの渡り

筆者は 1996 年~2007 年、三重県でオオジュリンの捕獲、放鳥をした。山階鳥類研究所の鳥類アトラスも参照すると、越冬するオオジュリンは太平洋岸側ルート、日本海沿いルートを経て山間部低地を通り太平洋側へ出るルート、朝鮮半島経由で三重県に越冬に来る 3 ルートがありそうである。

(三重「しろちどり」NO. 99, P2~3)

●ツンドラハヤブサ

12/7、三重県内でツンドラハヤブサ幼が撮影された。「ワシタカ・ハヤブサ識別図鑑」の著者真木広造氏に見てもらった結果、眉斑が不明瞭、下面の縦斑が太いことで、ツンドラハヤブサが一番近い。鹿児島で同成鳥が記録されているが、幼鳥は未記録である。1993/12 に和歌山市でビルに衝突した個体は 1991/10、米国テキサス州で放鳥したツンドラハヤブサ成であった。

(三重「しろちどり」NO. 99, P4~5)

●メガソーラー事業問題

1/14、都内で「全国メガソーラー中央集会」が開催され、1/15、同集会で採択された要望書を環境省、経済産業省へ持参した。現在、太陽光発電設備が条例で環境アセス対象となる県は長野、山形、大分のみ。環境省が検討を始めている案は、規模要件は 100ha とあり、殆どが対象外になる。関係自治体、議会から要望ある案件は全て環境影響評価の対象にすべき。事業者自ら行った評価に対して、住民、行政側の意見が出せないのは制度上の欠陥がある。準備書の段階で第三者機関が評価し、ゼロ・オプション(事業中止)もあり得るとする。固定価格買取制度で電気料金の賦課金は業務用で 16%、家庭用で 11%に増大している。申請のみで稼働していない不適切計画は 223 件(2018 年)もあり、未稼働は、申請時の固定価格買取は認めるべきではない。

<https://megasolarsympo.wixsite.com/-solar-sympo/blank-28>

(三重「しろちどり」NO. 99, P7~8)

●2019/3 筑豊

●ライファー

Life List Birds、生涯の中で初めて見た野鳥のことを指す造語。

(筑豊「野鳥だより・筑豊」NO. 493, P9)

●ツル性植物の蔓の巻き方(植物部)

蔓の左巻き、右巻きの表現は、定義、見る方向で混乱するので、現在の文部省検定の教科書ではその表現はしていない。蔓の巻き方表現として、①横から見て右肩上がり巻き②上から見て反時計回り巻き③左手で握って親指方向に進む左手親指方向巻き④Z字巻き、S字巻き等がある。

(筑豊「野鳥だより・筑豊」NO. 493, P31)

●2019/4 長崎県

●鳥の名がつく名字

「日本人のお名前」という番組がある。日本には 1 万位の名字がある。雀、燕、鷺、雁の名字は少ない。(全国に雀は 2100 人、燕は 270 人、鷺は 1300 人、雁は 30 人とネットにある。)

(長崎県「つばさ」NO. 376, P2)

●ナベツル北へ(3/9 長崎新聞)

3/8、午後 1 時頃、長崎市上空を 2 つの群れで計 180 羽程のナベツルが北上した。同日午前、鹿児島県出水市から 1761 羽のナベツルが飛び立っている。当日、支部会員は長崎市野母岬で 3 つのナベツルの群を見ている。

(長崎県「つばさ」NO. 376, P15)

●西海市に風力発電施設計画(3/5 読売新聞、長崎新聞)

日本風力エネルギー(東京)は西海市で風力発電施設の建設を計画している。早ければ 2020 年着工、2021 年稼働予定。高さ 150m の風車 3 台で、7499KW に抑え、環境影響評価法の規制対象外としている。西海市市長は「事業推進エリア」外として事業推奨しないとされている。地元では「東濱風力発電所建設に反対する会」が結成されている。

(長崎県「つばさ」NO. 376, P17)

●佐世保市の風力発電計画に要望書

3 月、複数の地元会長は佐世保市長に、同計画に反対の要望書を出した。九州電力では電力買取が制限域にあり、新電力は余っている。北海道の会社は既に石狩市で稼働中の施設で騒音トラブルで不誠実な対応で、なぜ北海道の会社が長崎で申請するのか。同地に 120m の巨大風車を建てることは毎秋、2 万羽のアカハラダカ、鹿児島県出水市からの 1 万羽のツルが通過するこの地の生態系破壊、観光資源の先細りになる。

(長崎県「つばさ」NO. 376, P18)

NO. 932

- 2019/3 北上
 - ・マナヅルが来た
 - ・オジロワシ全国一斉調査
- 2019/4 いわき
 - ・環境影響評価情報支援ネットワーク
- 2019/4 千葉県
 - ・国内希少種 36 種追加 (1/16 毎日新聞)
 - ・トキ「野生絶滅」脱却 (1/25 毎日新聞)
- 2019/3 和歌山県
 - ・ナベヅル越冬
- 2019/3-4 鳥取県
 - ・コアジサシのデゴイづくり
- 2019/3-4 愛媛
 - ・カラス類の糞害
- 2019/4 高知
 - ・中国から四国へナベヅル渡り (山階鳥類研究所)
- 2019/4 筑豊
 - ・遠くの野鳥
 - ・オジギソウの謎 (植物部)
 - ・DNA による鳥類の分類 (編集部)

●2019/3 北上
 ・マナヅルが来た
 2018/1/20、一関市でカナダヅルが観察された。
 2018/3/12、花巻市の田圃にも 2 羽のマナヅルが飛来した。鹿児島県出水市には 2000 羽以上のマナヅルがいる。この 2 羽は後日、青森県六ヶ所村、北海道でも見られたのと同じ個体であろう。
 (北上「北上支部報」NO. 25、P19)

・オジロワシ全国一斉調査
 2/17、北上川流域で、14 名で調査した。オジロワシ 7 羽を確認した。
 (北上「北上支部報」NO. 25、P29)

●2019/4 いわき
 ・環境影響評価情報支援ネットワーク
 環境省の同HPにはH25年に公表した「計画段階配慮手続きに関わる技術ガイド」があり、その24頁に「専門家等へのヒアリングによる情報確認、補完が望ましい」とある。義務ではないため、市内の7つの風力発電計画に対し、支部に野鳥に関し、照会が来たのは3つのみである。
 (いわき「かもめ」NO. 142、P1)

●2019/4 千葉県
 ・国内希少種 36 種追加 (1/16 毎日新聞)
 政府は 1/15 の閣議で、オガサワラヒメミズナギドリ等 36 種を種の保存法での国内希少種に追加した。これで国内希少種は 203 種になる。オガサワラヒメミズナギドリは 1997 年～2011 年に小笠原諸島で 6 羽が見つかり、2015 年には 10 羽の営巣地が確認されている。
 (千葉県「ほおじろ」NO. 456、P12)

・トキ「野生絶滅」脱却 (1/25 毎日新聞)
 日本産の野生種トキが途絶え、中国産のトキを元に野生復帰作業を進めてきた。1/24、環境省は自然生息数が増えたとして、国際自然保護連合の基準に沿って、トキを「野生絶滅」から「絶滅危惧ⅠA類」に 21 年ぶ

りに変更した。日本の動物で「野生絶滅」から回復したのは初めてである。環境省は過去 10 年間で 327 羽のトキを放鳥し、現在は佐渡島には 353 羽が生息する。
 (千葉県「ほおじろ」NO. 456、P12)

●2019/3 和歌山県
 ・ナベヅル越冬
 和歌山県御坊市の田圃で、44 羽のナベヅルが越冬した。2007 年以降、越冬例は 3 回あるが、出水のツル越冬地分散で、四国での越冬が増えたことに関係していると思われる。カメラマンが追い回すので、県自然環境室を通して立入制限の看板を設置した。3/5、26 羽が北帰行、3/9、残りの 18 羽が北帰行した。環境省の「ツル越冬地分散事業」の実施地域に同地を加えるよう要望している。
 (和歌山「いっぴつ啓上」NO. 137、P17)

●2019/3-4 鳥取県
 ・コアジサシのデゴイづくり
 2/10、8 名参加し、同デゴイを 50 個削り出し、4/14 に、ヤスリ掛けと色塗りで完成させる。海に流されてプラスチックごみにならぬよう、木製にしている。
 (鳥取県「银杏羽」NO. 162、P10)

●2019/3-4 愛媛
 ・カラス類の糞害
 松山市ではタカを用いて、カラス類を追いやることをしている。カラス類の問題は、ゴミ問題はハシブトガラス、ハシボソガラスにより、糞害は電線碍するミヤマガラスによることが分かっている。ミヤマガラスは追い出しても明るさの無い森の時には移動しない。
 (愛媛「コマドリ」NO. 249、P20)

●2019/4 高知
 ・中国から四国へナベヅル渡り (山階鳥類研究所)
 2012/4、中国黒竜省で放鳥されたマナヅルが、2018/11、高知県四万十市で、徳島県阿南市でも見つかった。この個体は既に 2012 年～2013 年、鹿児島県出水市でも観察されている。出水市への過度の一極集中緩和の、今後の知見に有意義な情報である。
 (高知「しろぺん」NO. 387、P3～5)

●2019/4 筑豊
 ・遠くの野鳥
 S9 年 6 月、中西悟堂氏が富士裾野で行った日本初の探鳥会には、双眼鏡を持参している人は少なかった。鳥寄せ名人、鳥の巣案内者がおり、鳥の巣見学会から全国の探鳥会に広がった。探鳥会の言葉は同氏が作った言葉とされる(同氏著「野鳥記」第一巻)。今では「野鳥の巣は撮影しない」、「野鳥を笛等で呼び寄せない」となっている。更に「野鳥に近づかない」、「野鳥を見ない」になるかも。
 (筑豊「野鳥だより・筑豊」NO. 494、P4)

・オジギソウの謎 (植物部)
 オジギソウはブラジル原産で、日本には江戸時代後期に持ち込まれた。葉が刺激されると、小葉の付け根からカリウムイオンが放出され、細胞内の水を排出する。これで葉は閉じる。葉柄の付け根でも同じことが

起き、下半分の水が抜け、枝が下へ曲がる。元に戻るのに 20 分程掛かる。何故、そのように進化したのか不明であるが、鳥、虫、風、雨から守る役割があるとされる。水の蒸発を防ぐため、光合成しない夜間にも行う（就眠運動）。

（筑豊「野鳥だより・筑豊」NO. 494, P53）

• DNA による鳥類の分類（編集部）

分類学者は「分子系統学」と呼ばれる、DNA の塩基配列情報を分析器で読み解いている。こうした背景で 2012/9 の「日本鳥類目録改訂第 7 版」では 100 以上の新種、亜種が掲載された。その結果、日本産の鳥は 24 目、81 科、633 種になっている。2008 年、国立科学博物館と山階鳥類研究所は 234 種、1367 羽から DNA を採取し、内 24 種は見かけがそっくりでも、別の種に分かれる可能性があると判明した。フクロウ、カケスも北海道、本州以南では亜種と見なしていたが、別種と見なせるほど違いがある。

（筑豊「野鳥だより・筑豊」NO. 494, P65）

NO. 933

●2018/11 旭川

- イヌワシの記録 旭川市 2 例目
- H29 年度オオワシ・オジロワシ一斉調査
- サンショウクイ旭川市内初記録
- シマアオジの減少と最新状況（本部普及室）

●2018/12 旭川

- 2018 年度オオジシギ繁殖個体数調査
- 2018 年天売島の珍鳥

●2019/3-4 栃木県

- サシバの里・菊炭プロジェクト
- メガソーラーの規制に関する要望書
- 国際サシバサミット 2019 予定
- チョウゲンボウの集団営巣は日本の特徴（長野県中野市学芸員）

●2019/4 埼玉

- 埼玉県野鳥チェックリスト 2019 追加（野鳥記録委員会）

- 埼玉県鳥獣保護管理員

●2019/5 埼玉

- カワリシロハラミズナギドリ（野鳥記録委員会）

●2018/11 旭川

• イヌワシの記録 旭川市 2 例目
2018/3/4、旭川市春志内で三つ星が目立つイヌワシを見る。大型の鳥では成鳥羽が完成するまで 3~5 年かかる。第 3 回冬羽 (3W) (参考：叶内拓也、高田勝 2018 羽 文一総合出版) と思われ、旭川市内では前年 3 月にもイヌワシを見ている。

（旭川「キレンジャク」NO. 6, P4~6）

- H29 年度オオワシ・オジロワシ一斉調査

環境省のオオワシ・オジロワシ保護増殖事業の一環として H29/11~H30/3 の間で 5 回、旭川市内石狩川流域を主に調査した。最大数記録したのは 2 月 (2/18) でオオワシ 27 (成 10、幼 17)、オジロワシ 30 (成 21、幼 9)、不明種 2 であった。

（旭川「キレンジャク」NO. 6, P7~9）

- サンショウクイ旭川市内初記録

2018/4/30~5/1、美瑛川河畔林でサンショウクイを撮影した。旭川市内初確認である。

（旭川「キレンジャク」NO. 6, P15~16）

- シマアオジの減少と最新状況（本部普及室）

2018/5 の北海道ブロック協議会にて。シマアオジは 1980 年代位まで道内各地で普通に観察されていたが、1990 年代には急減し、2015 年には繁殖地はサロベツだけになり、繁殖番数は 5 以下と推定された。越冬先の中国や渡り中継地での捕獲が原因とされた。2016 年、シマアオジの国際ワークショップが中国で開催された。2017 年、サロベツで追加調査があり、新たな繁殖地が見つかり、31 番まで確認できた。本部ではカラーリング装着を予定。山階鳥類研究所では血液から DNA を調査する。繁殖地 (民有地) をナショナルトラスト基金で購入を検討している。

（旭川「キレンジャク」NO. 6, P34~35）

●2018/12 旭川

- 2018 年度オオジシギ繁殖個体数調査

5/1~20、日の出 30 分前~8 時、旭川市周辺で調査した。1KW 四方で 56 メッシュを調査、内 32 メッシュで 54 個体 (ディスプレイフライト 22、パーチ個体 20、フライト音のみ 12) を確認した。参考：北海道におけるオオジシギの繁殖個体数の推定。

<https://www.wbsj.org/press/pdf/20180925.pdf>

（旭川「キレンジャク」NO. 7, P8~10）

- 2018 年 天売島の珍鳥

5/4、チャバラアカゲラ、国内で数例しか記録が無い。6/24、アホウドリ、山階鳥類研究所保全研究室の山口氏によると、日本海側での記録は無い。礼文島の遺跡にはアホウドリの骨がある。天売島ではクマガラの記録はないが、10 月、ヤマゲラを初記録した。

（旭川「キレンジャク」NO. 7, P31~33）

●2019/3-4 栃木県

- サシバの里・菊炭プロジェクト

栃木県市貝町でも里山林の高木化、荒廃が進み、里山の生態系が劣化している。ここでは切り口が菊の花に見えることから菊炭という高級お茶炭を作ってきた。今回、オオタカ保護基金と地元林業者が協働で「サシバの里・菊炭プロジェクト」を開始した。昨年 12 月、サシバの森内の 0.4ha にクヌギの苗木 800 本を植えた。7 年サイクルでこれから菊炭を作る。定期的な伐採で、シジミチョウの仲間、ワレモコウ等の生育環境改善になり、サシバの良い餌場にもなる。

（栃木県「おおるり」Vol. 257, P3）

- メガソーラーの規制に関する要望書

支部は 2015/9 に栃木県へ「大規模な太陽光発電事業に関する要望」を提出しているが、対応が無く、2018/12/2、再度、「栃木県環境影響評価条例の制度整備」として、早急に対応を要望した。

（栃木県「おおるり」Vol. 257, P7）

・国際サシバサミット 2019 予定
来る 5/25、市貝町でシンポジウム（樋口広芳氏の基調講演、各地からのサシバ保護報告等）がある。5/26、サシバの里いちがいがからバスでツアー予定。
（栃木県「おおるり」Vol. 257, P7）

・チョウゲンボウの集団営巣は日本の特徴（長野県中野市学芸員）
欧州等ではチョウゲンボウは単独で分布し、集団営巣は日本の特徴と思われる。特に長野県北部～東北地方日本海側、北関東にその割合が高い。日本ではチョウゲンボウの餌場である草地等がモザイク状に広がり、巣の近くに餌場が無い時はそこ（巣の周辺）を防衛する必要がなくなる。鉄橋や崖が長くなると、餌場が分かれ、複数の番の営巣が可能になる。主な餌であるハタネズミは短期間で繁殖し、優位な番も餌を独占することは難しい。更に積雪があることも関係しているかもしれない。
（栃木県「おおるり」Vol. 257, P9）

●2019/4 埼玉
・埼玉県野鳥チェックリスト 2019 追加（野鳥記録委員会）
埼玉県内で確認した種を 3 年ぶりに、下記 9 種追加した。アネハツル：2016/9/2、さいたま市。ミナミクイナ：2016/9/4、川越市。キマユホオジロ：2016/10/13、所沢市。モリムシクイ：2016/10/30、幸手市。アオシギ：2017/2/2、東松山市。クロアシアホウドリ：2017/2/2、越谷市。シラガホオジロ：2017/2/25、羽生市。マダラチュウヒ：2017/5/17、さいたま市。カラアカハラ：2018/5/6、秩父地方。
（埼玉「しらこぼと」NO. 421, P12）

・埼玉県鳥獣保護管理員
埼玉県環境部みどり自然課より同管理員 3 名の推薦依頼があり、3 名の支部役員を推薦した。
（埼玉「しらこぼと」NO. 421, P12）

●2019/5 埼玉
・カワリシロハラミズナギドリ（野鳥記録委員会）
10/5、越谷市でカワリシロハラミズナギドリ（淡色型）を確認した。344 種目の埼玉県野鳥リストに追加した。日本では暗色型が比較的多く見られ、淡色型は極めて稀である。（参考：箕輪義隆 2007 海鳥識別ハンドブック）
（埼玉「しらこぼと」NO. 422, P4）

NO. 934

●2019/4 道南松山
・津軽海峡は渡りの十字路
●2019/5-6 栃木県
・渡良瀬遊水地ワシタカ・カウント（保護委員会）
・ノジコはどこにいる？（福井市自然史博物館）
●2019/5 軽井沢
・ジョウビタキ、イスカ、越冬ツバメ（鳥追人）
●2019/5 神奈川
・異名を持つ鳥

・カモ調査雌雄比（幹事）
・ヤイロチョウの渡り調査参加者募集（生態系トラス協会）
●2019/5-6 遠江
・ツグミ減少（調査・研究部）
●2019/5-6 広島県
・鳥獣保護管理員レポート
●2019/5 筑豊
・セッカ
・ヒマワリの不思議（植物部）
・カッコウ（編集部）

●2019/4 道南松山
・津軽海峡は渡りの十字路
1/26 の「汐首風力発電計画と猛禽類の渡りルート」の講演より。函館汐首岬は野鳥の渡りの重要なルートで、猛禽類（ノスリ、トビで 9 割、他 8 種）、小鳥類 20 種以上が利用する（南北移動）。津軽海峡はミズナギドリ類、ハクチョウ類、ガン・カモ類の重要な渡りルートでもある。春にハシボソミズナギドリ 18 万羽が東から西へ通過している（東西移動）。この結果を受けて、汐首風力発電計画は断念された。
（道南松山「はちゃむ」NO. 126, P9）

●2019/5-6 栃木県
・渡良瀬遊水地ワシタカ・カウント（保護委員会）
2/3、探鳥会を兼ねてカウントした。結果はトビ 25、ノスリ 10、チュウヒ 4、ミサゴ 4、オオタカ 1、ハイタカ 2、ハイイロチュウヒ 1、ハヤブサ 2、チョウゲンボウ 1。
（栃木県「おおるり」Vol. 258, P7）

・ノジコはどこにいる？（福井市自然史博物館）
ノジコは不思議な分布をしている。世界では本州中部以北でのみ繁殖し、中国南部、台湾、比島北部で越冬する。ノジコの多い地区は地滑り跡地とされ、そこにはノジコが好む藪がある、積雪が深い北日本にノジコが多いのは何故か。他のホオジロ類との競争に弱く、ホオジロ類が利用しない環境を使っている？世界のノジコ棲息数 3500 羽～15000 羽（国際自然保護連合）とされ、何と 1934 年にノジコ捕獲数 3 万羽以上とあり、シマアオジのように急減したことが、局地的な分布と関係している？
（栃木県「おおるり」Vol. 258, P9）

●2019/5 軽井沢
・ジョウビタキ、イスカ、越冬ツバメ（鳥追人）
ジョウビタキの繁殖初記録は 2010/6、長野県富士見町とある（諏訪支部）
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjo/63/2/63_311/_pdf。
その後、各地で確認例が増え、地球温暖化で、南方で繁殖した個体が北上するのは理解し易いが、その逆はハクセキレイの繁殖地南下に似ているのかも。イスカは 2017/2、塩尻市で営巣確認しているが、冬でも繁殖できる。マツカサやトウヒ類の実を主食にしており、冬でも餌は大丈夫？越冬ツバメは日本で繁殖した個体が越冬するよりも、シベリア等の個体が南下し越冬している説が有力である。

(軽井沢「野鳥軽井沢」NO. 433, P8~9)

●2019/5 神奈川

・異名を持つ鳥

オオジシギ：カミナリシギ、尾羽の音から。ハクセキレイ冬羽：ウスズミセキレイ、色合いから。コムドリ：サクラドリ。ゴジュウカラ：キマワリ。イカル：マメマワシ。ヤイロチョウ：シロペン・クロペン、鳴声の聞きなしから(「Birds of East Asia」には鳴き声に shiropen-kuropen とある)。

(神奈川「はばたき」NO. 564, P4)

・カモ調査雌雄比(幹事)

2019年の県内一斉調査で、カモの雌雄比は総じて雄の方が多。コガモは雌が多く、♂1737、♀2077。♂がかなり多い種はホシハジロ、キンクロハジロである。

(神奈川「はばたき」NO. 564, P8~9)

・ヤイロチョウの渡り調査参加者募集(生態系トラスト協会)

2/14、高知新聞に「四万十町に風力発電49基、14.7万KW、地上120mの風車大規模開発計画」の記事。同地のヤイロチョウの渡りに懸念があり、当協会はヤイロチョウの渡り調査に参加する「住民参加型アセス」を提案する。ヤイロチョウは夜間鳴きながら渡ってくる。5/11~12頃がピークで調査参加者を募集する。照会先：同協会 中村滝男、TEL/FAX 050-8800-2816

メール ecotrust@me.pikara.ne.jp

(神奈川「はばたき」NO. 564, P12)

●2019/5-6 遠江

・ツグミ減少(調査・研究部)

2015年以降の1月~2月のモニタリング調査結果でのツグミを見ると、2015/2016/2017/2018/2019年の記録個体数は140/132/98/73/37と漸減している。

(遠江「遠江の鳥」Vol. 301, P8)

●2019/5-6 広島県

・鳥獣保護管理員レポート

広島県東部を主に違法飼養野鳥の鑑定を始めて10年、その間に鑑定した野鳥は217羽で、メジロが174羽と8割を占め、ウグイス7、ホオジロ11、ヤマガラ10等。違法被疑者の9割は60歳代以上で、これらは氷山の一角である。野鳥の会、全国野鳥密猟対策連絡会等が長年、訴えた結果、2012/4、全国の自治体は愛玩飼養目的でも野鳥捕獲を原則全面的に禁止にした。

(広島県「森の新聞」NO. 222, P2~3)

●2019/5 筑豊

・セッカ

セッカの行動については山階鳥研報「セッカの雄の行動と一夫多妻制母袋卓也 1976/6」がある。

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jyio1952/7/1/7_1_87/_pdf/-char/en

日本国内にはセッカ科はセッカ1種のみであるが、日本の南にはタイワンセッカが生息する。△ジセッカは△シクイ科、オオセッカはセンニュウ科である。

(筑豊「野鳥だより・筑豊」NO. 495, P36~37)

・ヒマワリの不思議(植物部)

ヒマワリは古代インカ帝国では太陽神のシンボルとして崇められ、現在は寒いロシアの国花である。ヒマワリが太陽の方を向くのは何故?これを光屈性と言い、成長ホルモンが関係する。太陽が当たっていない側の茎にこのホルモンが移動し、茎(葉)全体に光を当てるように茎の向きを変え、花が太陽の方を向いているように見える。程度の差はあるが、他の植物にもこの性質はある。

(筑豊「野鳥だより・筑豊」NO. 495, P38~39)

・カッコウ(編集部)

カッコウの雌は托卵直後、(ヨーロッパヨシキリを好んで捕食する)ハイタカの鳴きまねをし、仮親のヨーロッパヨシキリを動揺させ、托卵の成功率を高めるとある。

(筑豊「野鳥だより・筑豊」NO. 495, P52~53)

(自然保護室・野鳥の会・神奈川/森 要)

◆ブロックからのお知らせ

■第41回日本野鳥の会東北ブロック協議会総会報告

【日時】2019年3月16日(土)~17日(日)

【場所】天童市市民プラザ

【担当支部】日本野鳥の会山形県支部

【参加者】合計81名/内訳：14支部77名(ふくしま7名、郡山支部9名、白河支部1名、会津支部2名、相双支部2名、南相馬1名、宮城県支部7名、宮古支部3名、もりおか5名、北上支部2名、青森県支部3名、弘前支部7名、秋田県支部4名、山形県支部24名)、財団4名(松田道生理事、自然保護室/伊藤、普及室/江面・嶋村)

【来賓等】講師/松田蘭子氏、来賓/山形県環境エネルギー部みどり自然課・佐々木紀子課長、天童市経済部農林課・武田文敏課長(市長代理)



▲総会の様子

【概要】今回は、山形県支部より「鳥女」をキーワード

に企画をしており、各支部・財団より女性の参加をと呼び掛けられました。参加者の約 4 割が女性でした。総会の会場では、山形県支部の「鳥女会」の活動報告のポスターや手芸作品などの展示があり、懇親会では女性参加者向け抽選会などの企画がありました。

【プログラム】

1 日目/3 月 16 日 12 時 45 分～16 時

1. 挨拶・祝辞

日本野鳥の会山形県支部・築川支部長より開会のあいさつ、来賓より祝辞が述べられた。

2. 財団からの連絡：

(1) ガン・ハクチョウ類のセンシティブティマップ作成への協力をお願い/自然保護室より

風力発電施設の建設により影響を受ける鳥類の生息地を示す地図作成の情報を集めるため、ガン・ハクチョウ類の渡りを目撃したら、財団が解説しているHP「見つけて渡り鳥」等を通じて報告をしてほしいとの依頼があった。

(2)「探鳥会リーダーズフォーラム in 東北」開催報告/普及室より

2月に仙台市で開催された「探鳥会リーダーズフォーラム」の実施概要が報告された。総参加者 15 支部 34 名のうち、東北地方からは 5 支部 16 名の参加があり、初心者向け探鳥会など 6 つのテーマで分科会が設けられたことが報告された。

(3) 支部卸販売の紹介/普及室より

財団の取扱商品を支部へ卸価格で販売する支部卸販売の仕組みについて紹介があり、ぜひ利用してほしいとの呼びかけがあった。

(4) 入会促進キャンペーンの紹介/普及室より

現在、新規入会された方に対し、2020 年のオリジナルカレンダーがプレゼントされるキャンペーンを実施しているので、新規会員の勧誘に活用してほしいとの連絡があった。

3. 基調講演：

(1)『鳥女の昔話』講師：松田蘭子氏

1960 年代頃の東京湾での探鳥会のエピソードを当時の写真を交えて講演された。

(2)『録音をするなら今』日本野鳥の会理事松田道生氏

野鳥録音家・蒲谷鶴彦氏からの教え、録音の道具、実際の録音の様子など、体験を交えてのお話があった。

4. 総会

秋田県支部より「平成 29 年度会計報告」、白河支部より「次期総会開催について」(2019 年 10 月 26・27 日白河で開催予定)が議題として挙げられ、双方ともに異議なく承認された。

5. 各支部活動報告

■ふくしま

福島市小鳥の森を活用したイベントを開催している。2018 年度は、福島市小鳥の森で日本雁を保護する会会長・呉地氏、写真家の叶内氏を招いた講演会を開催した。

また、ツバメのねぐら観察を行っている。阿武隈川

のツバメのねぐらはヨシ刈で消滅した経緯があるため、広く市民にねぐらのある自然環境の価値を知らせていきたい。

2019 年 5 月に、福島市小鳥の森で野鳥に関するフェスティバルを企画中である。全国総会の際に知ったようにこの取組みからヒントを得て企画した。コーヒーを飲みながら、気軽に参加できるクラフト教室などを行い、新規会員獲得につなげていきたいと考えている。

■郡山支部

会員は 160 名ほどで、そのうち約 40 名が定期的に探鳥会などの行事に参加している。その 40 名のうち各回 3 名が輪番制で、行事を企画している。今年度の特筆すべき行事としては、栃木県市貝町のサシバの里の見学、千葉県我孫子市のジャパンバードフェスティバル見学などがある。

また、郡山支部では、20 年間継続してカッコウ調査を行っている。これは、市内の小中学校にアンケート調査の協力を呼びかけ、カッコウの個体数を推定するものである。2018 年の結果は 140 羽であり、20 年間変化がないことが分かった。

■白河支部

月 2 回の探鳥会とそれ以外のイベントが主な活動である。2018 年 4 月、毎年恒例の三菱製紙エコアカの森での植樹会に参加した。6 月、財団主催の写真展「鳥のいる日本の風景」に出展した。

10 月に、県内の原発事故の避難地域での録音データをもとに、どんな鳥がいたかを調べるイベント「バードデータチャレンジ」に参加した。4 回目となるイベントで、福島、郡山、白河、いわきの支部で実施している。

現在、支部の探鳥会のフィールドは各回さまざまであるため、今後は、市の象徴ともいえる湖「南湖」を中心に活動してはどうかという案がでている。

■相双支部

モニタリングサイト 1000 シギチドリ類の一般サイトとなっている松川浦で、継続してシギチドリ類の調査を行っている。春秋冬の年 3 回行っている。季節ごとの個体数の違い、全国のほかのサイトとの調査結果の比較などを行っており、ほかのサイトとの意見交換をして、知見を深めたい。

■宮城県支部

年 40 回以上の探鳥会の開催、また、月例の報告会、蒲生干潟のモニタリングなどの活動を行っている。

2017 年に創立 70 周年を迎えた。記念行事として、三宅島への記念探鳥会を実施した。

また、震災の後の宮城県の様子を知らせたい、初心者向けのガイドブックが欲しいという意見があがり、記念事業の一環として、初心者向けの宮城県の探鳥地ガイド『宮城の探鳥地』を発行した。2017 年 1 年間をかけて、会員たちがマイフィールドを歩いて情報を集めた 1500 部自費出版。発行から 4 か月経って、約 1000 部販売した。

■宮古支部

宮古市近郊にある日出島は、オオミズナギドリやウミツバメ類の繁殖地となっている。11 月が巣立ちの時

期。悪天候時の夜間に、幼鳥が市街地の照明に衝突して保護される事例が相次ぐため、巡回、保護、放鳥を行っている。近年は主にオオミズナギドリが多く保護され、2018年はオオミズナギドリ 50羽を保護した。

■もりおか

姫神ウィンドパークの建設について2月に、環境省とエコ・パワーに要望書を提出した。そのほか、県内で計画・稼働中のウィンドパークの一覧作成している。2019年5月、もりおか創立40周年を迎え、春から行事がたくさん予定されている。2019年12月に記念講演会を企画している。

■北上支部

年一回の支部報、探鳥会が主な活動。2018年5月バードウィーク早朝探鳥会(5-7時)を開催した。いままでも30年以上継続しており、30種の鳥が確認できる探鳥会である。

北上市の観光施設「みちのく民俗村」で、体験学習や自然観察会の実施協力を行っている。

■青森県支部

昨年の夏に、十和田市で、違法飼育の取り締まりに立ち会った。違法飼育している人の話を聞いたところ、クログミの鳴き合せはなくなったが、オオルリは継続されていることが分かった。そのため、密対連で、オオルリの飼育状況を調べることになり、関係団体に調査の協力依頼をしている。青森では5-7月に、いずれか一か所の市町村を歩いて、違法飼育の調査を行うことを予定している。

■弘前支部

日本海側全域にわたって400機近くの風力発電施設の計画がある。建設時には、ワシタカ類の渡りを考慮してほしいという意見を、支部として出していききたいと考えている。

年34回の探鳥会、夜の勉強会月一回を実施している。会員減に伴い、新規会会員を増やす必要があると考えており、初心者にも優しい探鳥会の実施を検討している。

■秋田県

年1回、タカの渡り観察をしている。2015年から9-10月2か月間の毎日、県内3か所で実施している。年一回しか調査をしていなかったころに比べると、かなりのタカが秋田を通過することがわかってきた。2018年3600羽通過していることがわかった。データは支部のHPで公開しているので、興味がある方は見てほしい。

■山形県支部

今年度、特に女性のための探鳥会2回、会員限定探鳥会1回を開催した。8月と2月は探鳥会には不向きな時期なので、室内のスライド・ビデオ鑑賞会を実施している。また、女性有志で「鳥女会」を行っており、参加者が集まりやすい平日にバードウォッチングをしている。

2017年度は、支部創立40周年事業として、台湾ツアー、沖縄ツアーを実施した。

※終了後、懇親会

2日目/エクスカージョン 8時半~11時半

- ①神社のケヤキの樹洞で繁殖するチョウゲンボウの観察
- ②舞鶴山でのベンガルワシミミズクとのふれあいとバードウォッチング
- ③イヌワシを使った鷹狩り実演の見学

(普及室/江面 康子)

◆事務局からのお知らせなど

■総務室より

■連携団体(支部等)代表者・事務局変更のお知らせ

名称変更などがあった連携団体(支部等)についてお知らせいたします。

●日本野鳥の会石川

【事務局長変更】

新)白川 郁栄(兼副代表)

旧)武田 伸一

変更年月日:2019年4月より

●日本野鳥の会吾妻

【代表交代】

新)中澤 和則

旧)植木 正勝

変更年月日:2019年4月23日より

●日本野鳥の会鹿児島

【代表交代】

新)柳田 一郎

旧)手塚 理一郎

変更年月日:2019年4月23日より

●日本野鳥の会室蘭支部

【事務局長交代】

新)佐藤 伸一

旧)市毛 三朗

変更年月日:2019年4月25日より

●日本野鳥の会滝川支部

【事務局長交代】

新)越後 弘(兼支部長)

旧)渡邊 増子

変更年月日:2019年4月より

詳細は、総務室までお問い合わせください。

TEL:03-5436-2620 Email:soumu@wbsj.org

(総務室/鈴木 美智子・林山 雅子)

■会員室より

■会員数

5月7日の会員数は34,445人で、先月と比べ12人減少しました。

4月の入会・退会者数の表をみますと、入会者数は退会者数より5人多くなっています。

会員の増減は入会者数と退会者数のほかに、会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活した人数によって決まります。

4月の入会者数は172人で、前年同月の入会者数209人と比べ37人減少しました。

また、4月の退会者数は167人で、前年同月の退会者数159人と比べ8人増加しました。

表1. 4月の入会・退会者数

	入会者数	退会者数
個人特別会員	10 人	5 人
総合会員(おおぞら会員)	25 人	43 人
本部型会員(青い鳥会員)	39 人	29 人
支部型会員(赤い鳥会員)	73 人	64 人
家族会員	25 人	26 人
合計	172 人	167 人
年度累計	172 人	※

※会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活する方がいるため、退会者数の年度累計は、実際の退会者数と異なります。

■都道府県及び支部別会員数

野鳥誌贈呈者数を除いた数を掲載します。

表2. 都道府県別の会員数(5月7日現在)

都道府県	会員数	対前月差
北海道	1,655 人	0 人
青森県	245 人	3 人
岩手県	364 人	-1 人
宮城県	480 人	7 人
秋田県	245 人	-1 人
山形県	218 人	1 人
福島県	607 人	0 人
茨城県	886 人	5 人
栃木県	660 人	4 人
群馬県	612 人	-2 人
埼玉県	2,098 人	1 人
千葉県	1,588 人	6 人
東京都	4,762 人	-16 人
神奈川県	3,285 人	-10 人
新潟県	365 人	0 人
富山県	202 人	-2 人

石川県	270 人	1 人
福井県	218 人	3 人
山梨県	260 人	1 人
長野県	846 人	3 人
岐阜県	465 人	-1 人
静岡県	1,304 人	-11 人
愛知県	1,506 人	1 人
三重県	423 人	-4 人
滋賀県	295 人	-3 人
京都府	819 人	0 人
大阪府	1,977 人	-1 人
兵庫県	1,280 人	0 人
奈良県	501 人	6 人
和歌山県	190 人	2 人
鳥取県	181 人	0 人
島根県	173 人	2 人
岡山県	544 人	-5 人
広島県	561 人	8 人
山口県	363 人	-7 人
徳島県	311 人	-3 人
香川県	189 人	-1 人
愛媛県	355 人	3 人
高知県	127 人	0 人
福岡県	1,281 人	7 人
佐賀県	193 人	0 人
長崎県	207 人	-4 人
熊本県	392 人	2 人
大分県	224 人	0 人
宮崎県	248 人	-1 人
鹿児島県	316 人	-4 人
沖縄県	106 人	-3 人
海外	11 人	0 人
不明	37 人	2 人
全国	34,445 人	-12 人

備考：不明は転居先が不明の会員を示します。

表3. 支部別の会員数(5月7日現在)

支部	会員数	対前月差
オホーツク支部	243 人	0 人
根室支部	80 人	0 人
釧路支部	155 人	-1 人
十勝支部	173 人	0 人
旭川支部	84 人	0 人
滝川支部	48 人	1 人
道北支部	27 人	0 人
江別支部	19 人	1 人
札幌支部	299 人	1 人
小樽支部	64 人	-1 人
苫小牧支部	161 人	2 人
室蘭支部	148 人	0 人

函館支部	22 人	0 人
道南檜山	59 人	2 人
青森県支部	132 人	-2 人
弘前支部	109 人	-1 人
秋田県支部	234 人	-1 人
山形県支部	201 人	-1 人
宮古支部	87 人	1 人
もりおか	158 人	2 人
北上支部	101 人	0 人
宮城県支部	450 人	5 人
ふくしま	157 人	-1 人
郡山支部	159 人	0 人
白河支部	39 人	-1 人
会津支部	55 人	0 人
奥会津連合	7 人	0 人
いわき支部	110 人	1 人
福島県相双支部	17 人	0 人
南相馬	14 人	0 人
茨城県	787 人	-3 人
栃木県支部	642 人	6 人
群馬	521	-5 人
吾妻	42	0 人
埼玉	1,589	5 人
千葉県	1,008	-1 人
東京	2,715	-12 人
奥多摩支部	815	-8 人
神奈川支部	2,265	-11 人
新潟県	273	0 人
佐渡支部	33	0 人
富山	183	-2 人
石川	254	1 人
福井県	210	3 人
長野支部	445	1 人
軽井沢支部	166	4 人
諏訪支部	227	-2 人
木曾支部	23	0 人
伊那谷支部	80	0 人
甲府支部	180	1 人
富士山麓支部	56	-2 人
東富士	60	0 人
沼津支部	156	-2 人
南富士支部	249	-3 人
南伊豆	37	0 人
静岡支部	340	-1 人
遠江	395	-3 人
愛知県支部	1,113	3 人
岐阜	458	-2 人
三重	360	-3 人
奈良支部	451	5 人
和歌山県支部	195	6 人

滋賀	299	-1 人
京都支部	771	-4 人
大阪支部	1,865	-4 人
ひょうご	969	0 人
鳥取県支部	198	-2 人
島根県支部	159	2 人
岡山県支部	514	-2 人
広島県支部	481	2 人
山口県支部	331	-6 人
香川県支部	149	0 人
徳島県支部	327	-3 人
高知支部	113	-1 人
愛媛	327	0 人
北九州支部	293	3 人
福岡支部	550	-3 人
筑豊支部	242	3 人
筑後支部	157	3 人
佐賀県支部	229	0 人
長崎県支部	192	-1 人
熊本県支部	392	2 人
大分県支部	216	0 人
宮崎県支部	244	-1 人
鹿児島	288	-3 人
やんばる支部	69	-2 人
石垣島支部	17	-2 人
西表支部	43	-1 人
	29,375 人	-39 人

備考：支部別の会員数の合計は、都道府県別の会員数の合計と異なります。これは、本部型（青い鳥）会員や支部に所属されていない個人特別会員が支部別の会員数に含まれないためです。

（会員室／佐藤 ゆき乃）

支部ネット担当より

皆さまいかがお過ごしでしょうか。いつも支部ネット通信をご愛読いただき、ありがとうございます。今月はホームページ等でもバードウィーク全国一斉探鳥会をPRしておりましたが、各地でのご参加状況はいかがでしたでしょうか？

今月号では、名称変更などがあった支部についてお知らせしております。

早くも夏日が続き、季節が移り変わっていきますね。皆さま、お体をくれぐれもご自愛ください。

■支部ネット通信は支部の代表の方に電子メールでも配信をしています。電子メールでの配信を希望される支部の代表の方は下記メールアドレスまでお気軽にお申し込みください。

日本野鳥の会

支部ネット通信

第182号

◆発行

公益財団法人日本野鳥の会 2019年5月29日

◆担当

総務室 総務グループ

五十嵐真/林山雅子

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2620

FAX : 03-5436-2635

E-mail : sibu-net@wbsj.org
